

大学改革が目指すもの

濱田 純一

(大学改革の基本的なスタンス)

- ・ 当たり前と考えてきたことを疑う
- ・ 社会の変化と連携しながらすすめる

(東京大学の行動シナリオ FOREST2015)

学術の多様性の確保と卓越性の追求、グローバル・キャンパスの形成、社会連携の展開と挑戦—「知の還元」から「知の共創」へ、「タフな東大生」の育成、教員の教育力の向上・活力の維持、プロフェッショナルとしての職員の養成、卒業生との緊密なネットワークの形成、経営の機動性向上と基盤強化、ガバナンス・コンプライアンスの強化、救援・復興支援など日本再生に向けた活動の展開

(研究)

○研究者の国際化

- ・ 東大の外国人教員の割合：6%→2020年に10% (分野によりさらに高い目標)
- ・ 平均給与比較
- ・ 基軸はなお日本人教員か

○女性教員をどう増やすか

- ・ 東大の現在の女性教員比率は10%程度→2020年には20%へ
- ・ 業績重視か多様性重視か

○若手教員をどう増やすか

(教育)

○「よりグローバルに、よりタフに」

○秋入学の議論へのアプローチ

- ・ 関連する環境条件の見直し
- ・ 社会システムとしての秋入学は、大学の学事暦の変更+教育システム・方法の変化+社会の意識やシステムの変化、の総合